

平成 30 年 6 月 15 日現在

機関番号：32616

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2014～2017

課題番号：26300027

研究課題名(和文) 古代メソポタミア北東部における歴史考古学的研究

研究課題名(英文) Research on the Historical Archaeology of the Northeast Region in Ancient Mesopotamia

研究代表者

沼本 宏俊 (Numoto, Hirotohi)

国土館大学・体育学部・教授

研究者番号：40198560

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はイラク、クルディスタン地方の大型拠点遺跡の考古学的調査研究である。27年度は同地方スレマニア県ドカン盆地の拠点遺跡グルディ・トレの測量と遺物表採、露出遺構・層序観察等を実施した。表採土器から先史時代から歴史時代かけての連綿と継続した生活層の堆積が予測され、同地域の文化編年を構築するうえで重要な遺跡であることを明らかにした。

28,29年度は同県シャフリゾール盆地の最大級遺跡ヤシン・テペの発掘調査を実施した。新アッシリア時代の中庭を有した公共の大規模建造物跡や地下式煉瓦造墓が検出され、同遺跡がアッシリア帝国の同地域の拠点都市古代名「ド・ル・アッシュール」に相当する可能性を強くした。

研究成果の概要(英文)：The main purpose of this research is the archaeological excavations at the large base sites in the Iraqi Kurdistan. In the 2015 season, we carried out the archaeological research at the site "Guldi tel" in the Dukan plain, Slemania, Iraqi Kurdistan. We conducted survey, surface correction, and observation of stratigraphy. Based on the analysis of pottery from surface collection, it is cleared that the site is very important for establishment of the archaeological chronology from prehistory to historical age in the Dukan plain. In the 2016, 17 seasons, we excavated "Yasin Tepe" which is the most largest site in the Shahrizor plain, Sulemania. We discovered the foundation of large public building with courtyard and the prestigious brick-built tomb both of which belong to the Neo-Assyrian period. This fact suggests that Yasin Tepe is now a strong candidate for "Dur Assur", which was the most important military and administrative centers in the Shahrizor plain at the Assyrian empire period.

研究分野：メソポタミア考古学

キーワード：イラク クルディスタン メソポタミア ヤシン・テペ アッシリア 歴史考古学 公共的建物 拠点遺跡

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、現在のイラン西部・イラク北部・トルコ南東部・シリア東部に相当するメソポタミア北部における前2~1千年紀前半の物質文化とその社会・歴史的背景に関する総合的研究を長期的な研究計画として見据えたうえで、現在のクルディスタン地方(イラク共和国クルド自治区)に相当するメソポタミア北東部の考古学的研究に取り組む。

現在、メソポタミア北東部は考古学的な最重要地域の一つとして見なされている。しかし、クルディスタンは、フセイン政権時代におけるクルド住民弾圧と湾岸戦争、イラク戦争のため、およそ40年間(1974~2005年)発掘調査は不可能な状況にあった。このため、新たな資料の発見もなく研究は停滞し、当該地域における文化編年とその歴史的・社会的背景の体系的把握は将来の課題として残されてきた。このような中、クルディスタンは2000年代末以降、治安が回復し同地域における調査が欧米隊により活発に行われ、徐々に成果をあげつつある。

今後の重要な課題の一つは、研究代表者が実施したイラク北部エスキ・モスール地方並びにシリア東部ハブール川流域の調査で明らかになった物質文化の広がり、またその歴史的・社会的背景の研究である。

本研究課題遂行のため研究期間内にクルド自治区エルビル県・スレマニア県にある前2・1千年紀の層位を包含した大形拠点遺跡を選定し発掘調査の実施を計画した。

## 2. 研究の目的

本研究の中心課題はイラク北東部クルディスタン地方における考古学的調査・研究である。同地域では大型拠点遺跡を含む多数の遺跡が確認されており、その考古学的・歴史学的重要性が認知されてきたものの、政治的理由により長期間全く調査が行われなかった。しかし、治安の回復に伴い、近年、外国隊による考古学的調査が急増している。

本研究は、未だほぼ白紙に近い同地域の物質文化の様相を明らかにし、その文化編年を確立するとともに、メソポタミア北部の他地域(エスキ・モスール地方並びにハブール川流域)においてこれまで行ってきた考古学的調査・研究の成果と比較検討し、また楔形文字資料から得られる情報を活用することにより、前2・1千年紀におけるメソポタミア北部の物質文化の展開とその歴史的・社会的背景を明らかにする。

本研究では、イラク北東部クルディスタン地方で前2千年紀~前1千年紀前半の歴史時代(古バビロニア、ミタンニ、中・新アッシリア)の大型拠点遺跡の発掘調査を行い、公共的建物跡や楔形文字資料の発見を目指し、考古・文献資料から同時代の未だ不明瞭な諸問題の解明を主眼とする。

## 3. 研究の方法

(1) 同地方のエルビル県・スレマニア県にある歴史時代の層位を包含した大形拠点遺跡を選定し発掘調査を行い、層序の確認及び宮殿・神殿等の公共的建物跡、楔形文字資料の発見を目指す。発掘成果・資料を精査分析し、同地方の文化編年の構築を行う。

(2) 北西メソポタミアと北東メソポタミアの政治的・文化的関連を究明する。出土考古遺物・文字資料からアッシリア時代の政治体制、地方制度、シリア東部ハブール川流域のテル・タバンの関連性を究明する。テル・タバンの出土の中期アッシリア時代の粘土板文書には同地方に存在した町に言及した記述が数多く認められ、遺跡の踏査及び発掘成果によりそれらの場所を特定する。

(3) 発掘により得られた考古学的データ(公共建築物・墓地等の遺構、土器、金属器等の出土品)を文字資料のもたらす情報とすり合わせることにより、精確な年代学的・歴史学的脈絡において分析研究する。前2~1千年紀のアッシリア史の全容解明という視点から、南北メソポタミア地方に所在する他遺跡と考古・文献資料を通して比較研究を行う。

## 4. 研究成果

(1) 26年度は6月にイラクでISが台頭したことにより、クルディスタン地方の治安状態が危惧されたため現地調査は中止した。27年度はクルディスタンでも比較的に政情が安定しているスレマニア県のラニア平原ドカン盆地の拠点遺跡グルディ・トレの調査を実施した(図1)。同地域は歴史時代には諸王国が覇権を争い地政学的にも重要で、特に同遺跡はザグロス山岳地帯を抜けてアッシリア帝国の根幹地ティグリス川流域へ通じるルートの中継地の要衝である。当年度は遺跡測量と遺物表採・実測、浸食部の露出遺構と層序観察を行った。南北約300m、東西約250m、高さ約30mを測る同遺跡をドローンから空撮し正確な測量図を作製した。表採土器の分析から先史時代では少なくともハラフ期、ウバイド期、ウルク期の文化層の堆積層の存在が確認できた。特に本研究の主眼である北メソポタミアの歴史時代(前2千年紀~前1千年紀前半:古バビロニア、ミタンニ、中・新アッシリア)の土器が広範囲に大量に認められることや、崖面の随所に大規模な石積遺構を確認したことから同時代の統括拠点として君臨したと推測される。崖面の堆積層や露出遺構から公共的建物の存在が予測され、発掘を行えば楔形文字資料の出土が大いに期待される。各時代を通して連綿と同地域の拠点として存続していたと想定され、未だ確立されていないドカン盆地の文化編年を構築するための良好なデータを提供することができる重要遺跡であることを明らかにした。



図1. グルディ・トレ遺跡の全景

(2) 28年度はスレマニア県シャフリゾール盆地にある同地域で最大級の規模を誇るヤシン・テペ遺跡の発掘調査を実施した。同遺跡は約700m×800m、高さ約25mで歴史時代の連続した層位の包含が予測され、本研究課題を遂行する上で最適の遺跡として本科研申請時から最優先発掘候補遺跡にしていた。遺跡は中央の遺丘部「上の町」とその外周を囲む「下の町」に分かれるが、当年度は「下の町」の発掘を実施した(図2)。20×30mの範囲を発掘し表層から約80cmの深さまで掘り下げた結果、3期に分かれる新アッシリア時代(前8世紀)の遺構を検出した。特筆すべきは最下層から長さ約14m、幅約6mの長方形の同時代後期に典型的な所謂「応接スイート」構造を有した建物跡を検出したことである。この建物跡は建築当初は日乾煉瓦造であったと考えられるが、壁跡は基礎の石積のみが残存する。部屋内の床からは方形の供物台状の焼成煉瓦敷き遺構を確認した。南壁には観音開き状の出入り口があり、外側には焼成煉瓦敷きと石敷きで構築された中庭が広がっていた(図3)。この建物跡の構造と規模は同時代の拠点都市の宮殿、神殿に類例が多いことから、公共的建造物であったことが明らかになった。

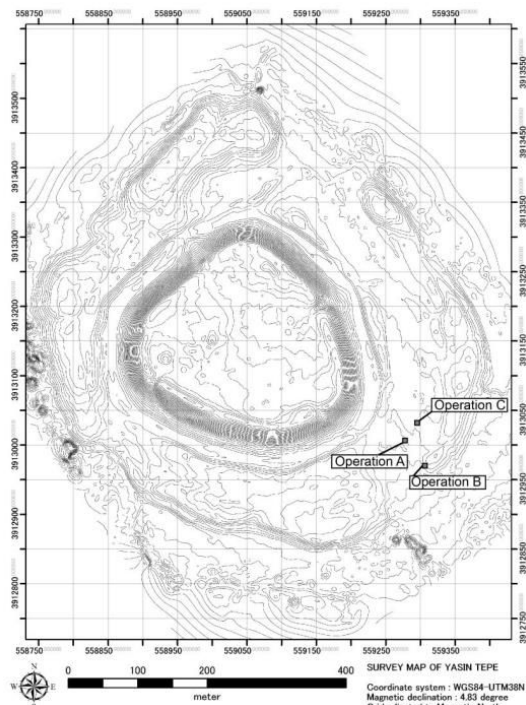


図2. ヤシン・テペの平面図と発掘区

(3) 29年度もヤシン・テペの発掘調査を継続した。前年度検出した上述の「応接スイート」構造の広間と焼成煉瓦敷きの中庭を有した公共的建物跡の全容究明のため調査区を拡大した。調査の結果、中庭を囲む建造物群は、中庭を含めると約17m×20mの規模を持ち、中庭を囲んでコの字形に建造物群が配置され、中庭の規模は約12m×10mであったことが明らかになった。さらに建造物群の基礎部石壁は、3時期に分かれ増改築が行われたことが判明した(図3)。

当年度の調査で最大の成果は、新アッシリア時代の未盗掘の地下式煉瓦造墓の発見である(図4)。墓は中庭の石敷きを破壊し構築され、縦坑部(前室)とアーチ形の天井部を有した墓室(長さ2.7m、幅1.6m、高さ1.2m)からなり、墓室の入り口は焼成煉瓦を水平に積み上げ閉塞されていた。墓室内の上部からは二次埋葬の陶棺(バスタブ形、長さ1.4m)が出土し、計5体の男女の人骨や副葬品の青銅製ボール、小型土器、金製指輪、耳・首飾り等の宝飾品が認められた。陶棺の下部から墓室床面までの20~30cmの一次埋葬の堆積からは、計3体の人骨と十数点の完形土器、青銅製品、ガラス製品、鉄製品、青銅製ランプ、ビーズ類等の豪華な副葬品が出土した。墓の構造や出土遺物は、アッシリアの首都であるアッシュールやニムルドで発掘された墓や出土品に酷似していることから、被葬者がアッシリアの王族一族と深い関係にあったことを示唆している。



図3. 発掘した建造物跡



図4. 地下式煉瓦造墓

(4) ヤシン・テペ調査で公共的建造物と地下式煉瓦造墓が発見されたことで、同遺跡がアッシリアの中心地の強い影響を受けていたことが明らかになり、同地域のアッシリア帝国の拠点であったことが確実になった。さらにヤシン・テペがアッシリア王室年代記に登場する拠点都市「ドール・アッシュール」であった可能性をより一層強固にした。今後、更に調査を継続し楔形文字資料の発見を目指し、上述の都市であったことを実証したい。本調査はこれまで未知であったアッシリア帝国東部辺境の支配体制、社会、政治、経済、文化の実体解明への糸口となる画期的な成果をあげたといえる。

#### 引用文献

西山伸一・沼本宏俊・山田重郎ほか(2018)「アッシリア帝国東部辺境を掘る—イラク・クルディスタン、ヤシン・テペ考古学プロジェクト・第2次(2017年)—」『第25回西アジア発掘調査報告会報告集』日本西アジア考古学会、17-21頁

西山伸一・沼本宏俊・山田重郎ほか(2017)「アッシリア帝国東部辺境を掘る—イラク・クルディスタン、ヤシン・テペ考古学プロジェクト・第1次(2016年)—」『第24回西アジア発掘調査報告会報告集』日本西アジア考古学会、16-20頁

山田重郎・長谷川敦章(2016)「イラク、クルディスタン自治区ラニア平原におけるグルディ・トレ遺跡の調査(2015)」『第23回西アジア発掘調査報告会報告集』日本西アジア考古学会、38-43頁

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 9 件)

西山伸一・沼本宏俊・山田重郎ほか(2018)「アッシリア帝国東部辺境を掘る—イラク・クルディスタン、ヤシン・テペ考古学プロジェクト・第2次(2017年)—」『第25回西アジア発掘調査報告会報告集』日本西アジア考古学会、17-21頁

小高敬寛(2018)「新石器化と都市化のはざま - イラク・クルディスタン、シャイフ・マリフ遺跡の予備調査(2012~17年) - 」『第25回西アジア発掘調査報告会報告集』日本西アジア考古学会、12-16頁

沼本宏俊(2017)「シリア、テル・タバンの発掘調査」『季刊考古学』第141号、雄山閣、58-59頁

西山伸一・沼本宏俊・山田重郎ほか(2017)「アッシリア帝国東部辺境を掘る—イラク・クルディスタン、ヤシン・テペ考古学プロジェクト・第1次(2016年)—」『第24回西アジア発掘調査報告

会報告集』日本西アジア考古学会、16-20頁

山田重郎・長谷川敦章(2016)「イラク、クルディスタン自治区ラニア平原におけるグルディ・トレ遺跡の調査(2015)」『第23回西アジア発掘調査報告会報告集』日本西アジア考古学会、38-43頁

山田重郎・長谷川敦章(2016)“Archaeological Investigation at Grd-i Tle in the Rania Plain Iraqi Kurdistan” *Al Rafidan* 37, 143-151.

沼本宏俊(2016)“Tell Taban (Hassake),” in: A. Tsuneki and Y. Kanjou (eds.), *A History of Syria in One Hundred Sites*, Archaeopress, 184-187

山田重郎・柴田大輔(eds.)(2016) *Cultures and Societies in the Middle Euphrat and Habur Areas in the Second Millennium BC*, Vol. 1: *Scribal Education and Scribal Traditions*, Studia Chaburensia 5, Wiesbaden: Harrassowitz Verlag, xiv plus 191 pages (査読有)

沼本宏俊・山田重郎(2015)“Excavations at Tell Taban: Culture and history at Tābatum/Tābetu during the second millennium B.C”, *Program and Abstracts of ISCAH(International Syrian Congress on Archaeology and Cultural Heritage)*, Beirut, 2015, 82

〔学会発表〕(計 9 件)

西山伸一「アッシリア帝国東部辺境を掘る—イラク・クルディスタン、ヤシン・テペ考古学プロジェクト・第2次(2017年)—」、日本西アジア考古学会、第25回西アジア発掘調査報告会、2018

小高敬寛「新石器化と都市化のはざま - イラク・クルディスタン、シャイフ・マリフ遺跡の予備調査(2012~17年) - 」、日本西アジア考古学会、第25回西アジア発掘調査報告会、2018

山田重郎“Excavations at Yasin Tepe and Its Historical Context”, *Between the Zagros and Mesopotamia : Archaeology of the Diyala Valley in Iraq*, 2018

西山伸一“Iron Village and City in Iraqi Kurdistan : Results of Qalat Said Ahamadan and Yasin Tepe”, ASOR(American Schools of Oriental Research) 2017 Annual Meeting, 2017

西山伸一「アッシリア帝国東部における物質文化と地方統治形態: Yasin Tepe Archaeological Project の成果から」、日本オリエント学会第59回大会、2017

西山伸一「アッシリア帝国東部辺境を掘る—イラク・クルディスタン、ヤシン・テペ考古学プロジェクト・第1次(2016年)—」、日本西アジア考古学会、第24回西アジア発掘調査報告会、2017

山田重郎「イラク、クルディスタン自治

区ラニア平原におけるグルディ・トレ遺跡の調査(2015)」、日本西アジア考古学会、23回西アジア発掘調査報告会、2016  
山田重郎 “Excavations at Tell Taban: Culture and history at Ṭābatum/Ṭābetu during the second millennium B.C.”, International Syrian Congress on Archaeology and Cultural Heritage, Beirut, December 3-6, 2015  
沼本宏俊 「テル・タバンの遺跡の調査と現状」、シリア内戦下の文化遺産：その危機と保護にむけて(主催筑波大学)、2015

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

沼本 宏俊 (Numoto Hirotoshi)  
国土館大学・体育学部・教授  
研究者番号：40198560

### (2) 研究分担者

山田 重郎 (Yamada Shigeo)  
筑波大学・人文社会系・教授  
研究者番号：30323223

柴田 大輔 (Shibata Daisuke)  
筑波大学・人文社会系・准教授  
研究者番号：40553293

西山 伸一 (Nishiyama Shinichi)  
中部大学・人文学部・准教授  
研究者番号：50392551

真保 昌弘 (Shimbo Masahiro)  
国土館大学・文学部・准教授  
研究者番号：60407202

久米 正吾 (Kume Shyogo)  
東京芸術大学・社会連携センター・  
特任講師  
研究者番号：30550777

小高 敬寛 (Odaka Takahiro)  
東京大学・総合研究博物館・特任助教  
研究者番号：70350379

下釜 和也 (Shimogama Kazuya)  
古代オリエント博物館・研究部・研究員  
研究者番号：70580116

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

### (4) 研究協力者

長谷川 敦章 (Hasegawa Atsunori)